

令和7年度 園評価書

園番号 35 園名 入山こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かで 健やかな体	やりたいことに 向き合う子	どうして?不思議?!おもしろい!を感じ、夢中になって遊びを楽しんでいる	個々で差は見られるが、気になったことを図鑑で調べたり考えたりして答えを出そうとする姿はあった。又、子ども一人一人がどんなことに興味を持っているのかを保育教諭が考え活動に取り入れることで夢中になって遊ぶ姿が見られるようになってきている	B	A	・AとBの違いがわかりにくかったが、今回の説明を聞き評価は妥当だと思う。 ・経営という観点ではA、子どもの育ちとしてはBだが、経営としてみたら良いと思う	・「やりたいことに向き合う子」という重点目標 不思議やおもしろさを感じられるようになってきたが、夢中に・・・という部分では弱い。 子どもの「おもしろい」と感じている瞬間を捉え、職員で話し合う。そこからそれを持続させるための環境や教材を整えていく。 ・保育者がまず手本を示すことから始め一斉に言うのでは無く自分で考えて言えるようにしていく
		好きなこと好きなものを見つけ、自分の思いを表現したり、相手に伝えようとする姿がある	自分たちが経験して「楽しい」と理解したものに対しては自分から「やりたい」と伝える姿が見られ思いを表現できている。又、年長児が経験したことを年少児に教えたりすることで自信につながってきている。	A	A		
		様々な人に親しみを持って挨拶したり、身の回りのことや片づけや手伝いを自分でしようとする	園内にいるときは近くを通った方に気持ちの良い挨拶をすることができ。様々な人に親しみを持ってほしい慣れて欲しいという思いから園外での交流を増やしてきたが少しずつ慣れてきている。保育者が率先して挨拶をすることで身についていくと感じる	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個々の発達や経験しようとする力を理解し、一人一人に応じた教育・保育を行っている	個々の発達を理解しその子の発達により声のかけ方を変えたり事前に伝えたりするなどしている。又職員間でも共有し同じ対応をするように心掛けている	A	A	・色々な楽しかった経験をしてこそ子ども達が大人になった時、園でのことを思い出せる。 ・平仮名を練習したり、クッキングをしたり家でできないことをやってくれることが嬉しい。	少人数園の良さは、保育者が子ども一人一人に合わせ丁寧に関われることである。子どもに合った関わりを今後も職員と共有しながら同じ関わりをしていく。 乳児は起床、就寝時間を確認し、そこからつながる生活リズムが個々に合わせた保育が出来ている。早遅でも使用しているおもちゃの改善をするなど引き続き環境整備に努めていく 入山の強みは自然が豊かなこと。入山五感マップを利用し、もっと園外の自然を楽しむと共に、園内での遊びの工夫も欠かさないようにしていく。 ・改めて減災のため年間計画をたて、ねらいをはっきりさせる。 ・ヒヤリハットを出し、常に事前の気付きを大事にしている。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムや発達をおさえ、安定した気持ちで園生活を送れるように配慮している	早番保育と遅番保育の環境構成を変えるなどして過ごし方を工夫したが幼児は塗り絵遊びが落ち着くようである。乳児クラスの個々の姿や生活リズムに合わせて室内で体を休めたり絵本を読んだりゆったりと過ごせる環境づくりを整えた。幼児クラスも休み明けなど不安定になってしまう子もいるため思いを共有して関わっている	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	自然の中で五感を使って体を動かし十分に遊んでいる	親水公園の落ち葉を拾い落ち葉プールを作ったり松葉を利用して火を起したどんどこ焼き、枯葉を使って焼き芋づくり、赤土を使った団子づくり、八幡神社で拾ったどんぐり転がしなど自然物を使い十分に遊んでいる	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練を実施し、その時々に行うべき行動が出来るように取り組み、安全や事故防止への意識を高めている	正規職員は減災教育の研修を受け、命を守るための避難訓練を想定し子どもたちが自ら行動できるように訓練を行っている。社会福祉避難訓練では地域の方に一緒に参加していただいたり不審者訓練では由比交番の方に訓練を見ていただき安全面の意識を高めている	A	A	小学校の養護教諭の先生の指導は見えない菌を可視化することで、子ども達の理解につながる。 家庭とは、子どもの姿を伝え合いながら必要なことを一緒に関わっていく。 子ども一人一人の発達を捉え、振り返りで悩みを話し合えたことで、発達に合わせて支援ができるようになった。 分掌の縮小や工夫をしながら、全職員で協力し合い、完成させるようにしていく。 子どもの姿を振り返りに話し合う時は子どもの姿を共感的に捉え、良い所を引き出せるようにテーマをしっかり決めて簡潔に話し合う クラスを見合い、環境の再構成をしたり、教材研究をしたりするなど、職員自身の学びを深められるようにしていく。 園だより、クラスだよりでの教育・保育の思いの発信、懇談会、面談、保育者説明会では園の教育保育についての細かな発信を丁寧にしていく。 来年度は由比北小がなくなり、由比小とのつながりをどう持つようになっていくか、由比中央との交流の持ち方を話し合い進めていく。ただ、年中児であるため、無理なく進めるようにする。 保育計画により地域の人と触れ合ったり教えてもらったり経験させてもらうことで、それが遊びにつながり、子ども達の貴重な経験になっている。来年度も年中児としてどう関わっていくか、個々の発達を考えながら関わっていく。	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣が身につくように家庭と連携を取りながら個々に合った援助ができていく	乳児クラスも毎日の繰り返しから生活のリズムを理解し自分から帽子をかぶろうとしたり靴下をはこうとするなど自立心や意欲が出てきている。幼児組は衣類を畳んだり手洗い後のハンカチを利用するなど丁寧にやろうとする姿が見られている	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人が自己肯定感を持ち、生き生きと遊び生活できるように、発達や特性に合わせた支援をしている	月案、週案の計画、子どもの遊びの振り返りによる話し合いの時に子どもに合わせた支援になるように行っている。又その支援も成功することも増え、成長している姿を感じられている	A	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割について責任を持ち、協力し合い、教育・保育を行っている	一人一人が担う分掌が多く職員で協力し合い教育・保育を進めた。行事については何度も話し合いを重ねて皆で作りにした	A	A		
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「やりたいことに向き合うための援助」を意識し、日々の手立ての実践が行われ園内研修を進めている	研修テーマをを実践するための日々の手立てに「子どもの目線、仕草、行動を共感的に捉え伝えていく」点においても子どもを肯定的に捉えた場面の共有が足りなかった。子どもの成長・発達についての職員の困り感や援助について悩みがあり、それを解決する話し合いとなる事が多くなる事は必要なことだがもっと肯定的に捉え話し合う必要があった。入山五感マップを園の強みとして作成した。来年度も活用できるようにしたことはよかった。	B	B		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	年齢の発達に応じた子どもの興味関心に合わせた環境を構成したり、教材を準備している	発達や遊びの興味関心に合わせて環境構成したり教材を準備して変化させていた。廃材を用意しいつでも自由に作れるようにしたり乳児は小麦粉粘土などの感触遊び年長は針と糸を使い刺繍や毛糸を使ったマフラー編み年少児は経験したことの再現遊びなどその時に必要な環境を構成した。園庭には綱渡りできる遊具を考え点検の方の協力の元完成した。しかし、もっと教材研究をしたり各クラスの環境を見合うなどして環境をテーマにした勉強会をした方が良かった	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者の子育てに関する不安を理解し、子どもの成長を共に喜び子育ての楽しさの共有ができていく	年に2回の参加会や面談や懇談会を行い子どもの成長や課題を伝えている。毎月園だよりとクラスだより、乳児は連絡帳、幼児はドキュメンテーションを使って写真入りの配信を行い園での遊びの様子を細かく伝えている。又送迎時にもその日のエピソードを伝えているが保護者アンケートではC評価をいただいている箇所もあるため十分でないことがあったと考えられる	B	B	・保護者アンケートが気になるが、園経営の点で保護者にうまく伝わっていないからということであったが、そこが上手く伝われば理解してもらえるかもしれない。焦らず考えていけばいいのでは	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園・小中学校との連携を図り、交流を行い、園児・児童・職員とのつながりを深め情報交換を進めている	ゆいっこ交流会、由比北小学校との交流、由比小見学、小中一貫コミュニティスクールの参加などを行い幼児も職員も繋がりが持たれている。中学校にはなかなか行くことはないが職員を通してサンタ役としてクリスマス会に来ていただいた	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな感動体験が得られるように地域の様々な人との関わりを大切にしている	八幡祭り祭り、カレーパーティのご招待、敬老会、入山S型への参加、美容院、近隣商業施設への訪問、花育教室などの協力、散歩に出かけた時の関わりなど、いろんな場所、姿、関わりを通して大切にされていることを知ることに繋がっている	A	A		